

## 水生生物調査結果

## 1 目的

水質調査を補完し、河川や運河などの水辺環境を総合的に把握するため、水生生物調査を実施した。

## 2 日時

(1) 平成25年7月22日(月) 午前8時から午後5時まで

(2) 平成25年7月24日(水) 午前8時から午後5時まで

## 3 調査地点

項目	①中央大橋	②浅草橋	③日本橋	④亀島橋	⑤大手門橋	⑥黎明橋	⑦佃小橋	⑧石川島
	隅田川	神田川	日本橋川	亀島川	築地川	朝潮運河	佃川支川	公園
魚類	○	○	○	○	○	○	○	○
付着生物	○			○	○	○	○	○
底生生物	○	○	○	○	○	○	○	
水質	○	○	○	○	○	○	○	
底質	○	○	○	○	○	○	○	

## 4 調査結果

## (1) 魚類等

魚類等は、10種類、172個体で、マハゼ、ボラ、タカノケフサイソガニなど海水と淡水が混ざりあう環境を好む魚類が採集された。

調査の前日(7月23日)に最大で21mm/時の強い雨が降ったため、採集に影響があった。

## ※採集個体数の推移

平成10年度 8種類 87個体

平成15年度 18種類 418個体

平成20年度 20種類 1,700個体以上

## (2) 付着生物

高潮帯(上部)から低潮帯(下部)に向けて、フジツボの仲間、コウロエンガワヒバリガイ、イソギンチャクなどが分布していた。

## (3) 底生生物(マクロベントス、メイオベントス)

マクロベントス(大きさが1mm以上)は、29種類、3,002個体/m<sup>2</sup>で、アサリ、マガキ、アシナガゴカイなどが採集された。

また、メイオベントス(大きさが0.32mmから1mm未満)は、14種類、250万個体以上が採集された。

## (4) 水質

水中に溶解している酸素量を示す溶存酸素量は、中央大橋表層、浅草橋底層、黎明橋表層及び底層、佃小橋（表層のみ調査）で環境基準を満たしていた。

河川の汚濁指標である生物化学的酸素要求量は、全ての地点の表層・底層ともに環境基準を満たしていた。

また、海域の汚濁指標である化学的酸素要求量は、黎明橋の表層・底層ともに環境基準を満たしていた。

#### (5) 底質

日本橋、大手門橋で化学的酸素要求量や底質の汚濁指標の一つである全硫化物が高い値を示した。

### 5 調査機関

株式会社日本海洋生物研究所

### 6 その他

本調査結果をもとに、パンフレット「川の中の生き物たち」を作成し、本年4月以降、区内各小・中学校及び環境情報センター等関係機関へ広く配布している。